

令和8年度 第1回阿見町史編さん委員会 議事録

日時 令和8年8月26日（水）10時00分～12時00分

場所 中央公民館 3階 第一会議室

【会議出席者】 ※敬称略

出席委員	服部 隆全（委員長・副町長）、宮崎 智彦（副委員長・教育長）、永井 博（副委員長・近世専門部会長）、白田 正子（原始古代専門部会長）、川村 満博（中世考古専門部会長）、伊藤 純郎（近現代専門部会長）、萩谷 良太（民俗専門部会長）、小倉 貴一（町長公室長）、山崎 厚（総務部長）、糸賀 昌士（教育部長）
欠席委員	山縣 創明（中世文献専門部会長）
事務局	大塚 淳、鯉沼 智博、浅香 綾斗、林 晃平、岡野 翔大

【議事】

発言者	内容（概要）
事務局	〈開会〉
議長	審議事項「（１）各専門部会の進捗状況報告について」、各部会長からご報告をいただきます。
各委員	（各専門部会長報告）
議長	各部会からの報告について、ご意見、ご質問のある方はご発言をお願いします。
委員	町史編さんで収集した資料をどのように保存・活用していくかは非常に重要です。今ある施設を活用してもよいので、町史編さん後も、集めた資料は活用できるような体制づくりを考えていただきたいと思います。
事務局	例えば学校教育の現場で活用したいというときにすぐに取り出せる体制は取っておきたいと考えています。
委員	学校関係でいうと学習指導要領の改訂があり、それに関連して郷土資料の改訂も始まります。そこにこの成果がうまく反映できればよいのかなと思います。また、町史編さんの成果を学校教育に活かす場として、土器などを授業で使いたいというときに、ゲストティーチャーのような形で協力

事務局	する体制があればと思います。 社会科副読本の改訂の際は、学校教育課や指導室と話をしながら対応していきたいと思います。学校教育での講師については、これまでも町内外の専門家の方にゲストティーチャーで参加いただいた事例もあります。町史編さん関係の方にもご参加いただけるよう、学校教育課や指導室と情報共有しながら進めていければと思っています。
議長	ありがとうございました。進捗状況報告は以上になります。
議長 事務局	「(2) 全体スケジュールについて」、説明をお願いします。 各部会からの要望等を踏まえ、全体スケジュールを一部修正しました。令和8年度下半期に民俗専門部会が講演会を予定していましたが、部会の体制変更もあり、今年度の講演会は見送りたいという要望を受けました。令和10年度上半期にも民俗の講演会が入っているので、こちらに注力していただければと思います。令和9年度上半期には、古代東海道のトレンチ調査が予定されていましたが、難しいということで代わりに「委託事業」として石器実測委託を入れています。 今年度予定されている調査について、原始古代専門部会の諏訪寺院跡トレンチ調査は12月から1月にかけての期間でお願いしたいと思っています。また、民俗専門部会では建造物の実測委託を8月から12月の期間で予定しています。候補の建物の一つに解体予定があり、1棟分のみ先行して調査を進めています。並行して、町内文書の資料整理・資料調査は事務局でも進めています。 町史編さん講演会は、秋にも開催します。題材は原始古代で、開催日は11月22日(日)、会場は中央公民館3階の集会室を予定しています。 説明について、ご意見、ご質問のある方はご発言をお願いします。 令和10年度について、原始古代でリレー講座、民俗・近現代・中世考古で講演会があり、かなり盛りだくさんです。ほかの部会がよければ、中世考古は、例えば令和11年度下半期に実施するなどでもよいです。 また、資料編集とはあくまでも資料の編集であって、このときにアップするという事ではないですか。

事務局	できれば完成させていただきたいです。
議長	講演会のリスケジュールについてはどうですか。
事務局	これは各部会に希望を出していただいたものを、そのまま入れているものになります。たしかに令和 10 年度あたりが調査も一段落してくるころで、開催希望が多かったのも事実です。令和 11 年度下半期あたりで開催できればバランスもよくなると思います。
委員	報告書等の資料編集についてですが、期限を令和 10 年度下半期まで延ばしていただければありがたいです。
事務局	そのようにさせていただきます。
委員	今後、遅れるものもあると思います。それは本編の刊行前には作っておいてほしいという捉え方でよいですか。
事務局	資料集の取り扱い、本編を書くためのベースと捉えておりますので、本編刊行前には資料集はすべて出ているようお願いいたします。
委員	講演会について、令和 9 年、10 年、11 年を今回で決定するというより、あくまで最初の案が残っているイメージでした。ここは改めて希望を出したいです。リレー講座と講演会の違いは、どういうイメージですか。
事務局	リレー講座は、各公民館やコミュニティセンターの部屋で何回かに分けて行われるイメージです。専門部会の専門員が講師として交代で入り、何回かの講座を行うものを一つのパッケージとして考えています。
委員	近現代は先駆けとして今年の 4 月に講演会を実施したのですが、報告全体の割り当て時間が短く、消化不良のような部分もありました。令和 10 年度には第 2 弾の講演会も考えているので、可能であれば 9 年度にリレー講座をやりたいです。専門員に発表してもらう場を設けたいと思います。 もう 1 点は、いはらき新聞のデータの調査について、どういう形で記事検索（特に戦中から昭和 30 年くらいまで）をすることになりましたか。
事務局	現在、町史編さん事業に付随して会計年度任用職員を 1 名雇用し、町が所有している近世や近現代の文書を整理しているところです。その職員

	に、いはらき新聞等の新聞記事のデータもお願いできればと思います。
委員	こちらからリクエストして、希望の年代・希望の項目について記事の検索を事務局を通してお願いすればよいということですか。
事務局	ご要望があれば事務局にお伝えいただければと思います。
委員	先ほど講演会の話がありましたが、タイトルは「フォーラム」でした。近現代が開催したときは講師が最後に出て、町民や地元の方から意見をたくさんいただいて、フォーラムというイメージを感じました。フォーラムだと意見交換するというイメージが多く、タイトルを見たときに、原始古代はどうだろうかという不安がありました。
委員	近現代のときも「講演会」と出したのですが、チラシの中で町から「フォーラム」と出てきました。だから、講演の時間を調整して、町民からの意見を聞いて、それを踏まえてやることにしました。
議長	お話を聞いていると、ネーミングについて事務局と委員とのすり合わせがしっかりできていなかった感じがします。今後、フォーラムでよいのか、講演会なのか、すり合わせをするようにしてください。スケジュールに入っているものについても、各委員と調整するようにしてください。
議長	「(3) 町史本編仕様案および執筆要領案について」、説明をお願いします。
事務局	町史本編仕様案および執筆要領案のたたき台を作らせていただきました。今回や各専門部会でご検討後、ご意見を出していただき、集約して第2回の町史編さん委員会で修正案を出せればと考えています。事務局案ですが、書籍名については、現段階において発行時点では阿見町なので、「阿見町史」をベースにいくつかの案を出しています。サイズについて、前回の町史はA5版ですが、今回はA4版フルカラーを考えています。発行部数が1,000部、発行時期が令和12年度末で、本編分量（ページ数）は前回の町史と同じ800ページを考えています。ページ構成は30字×25行の2段組です。前回と同様のページ数ですが、分量としては増えると思います。各部会の分量は、基本的には前回の町史のページ数を基準にしています。原始古代が100ページ、中世が文献と考古を合わせて100ページ、近

	世が 140 ページ、近現代が 320 ページ、民俗が 80 ページとなります。その他、表紙や目次、年表などを合計して 800 ページです。また、現在編さん事業を行っている自治体の執筆要領などを参考に、事務局で執筆要領案も作らせていただきました。字体やポイント数などは本来、編集のときに必要なものなので、執筆要領案からは抜いて仕様の方に別途記載していくのがよいと考えています。
議長	説明について、ご意見、ご質問のある方はご発言をお願いします。
委員	本編の分量が 800 ページとお示しいただいてよかったと思います。ある程度のページ数の中で作る方が我々も決めやすいです。 1 点危惧しているのは、ページの分量について現行の阿見町史をベースに使っていますが、今回の新阿見町史を作るときに近現代専門部会に、前回の町史（昭和 53 年）からの 50 年間については触れていないので、ここについてきちんと書いてほしいということ言われています。我々としては前回よりも 50 年分を多く書かないといけません。現行のページでいくと、50 年間の記述も非常に弱くなってしまいます。
事務局	前回の町史をベースにしながら、ページは増加させていただきましたが、各専門部会でもご検討いただくかと思いますので、そのときに部会間での調整はできると思います。当然事務局も間に入らせていただいて、調整はさせていただきます。
議長	今日お示しした数字はたたき台として各専門部会で検討していただき、それを事務局にフィードバックしていただくということでしょうか。
事務局	はい。
委員	現行の町史と新しい町史を比べたときに、現行の町史をベースに新しいものを書いたとして、最近のことにほとんど触れていないのではないかと、となってしまうことだけを心配しています。
委員	確認ですが、部会間の調整というのは、どこかを増やすとどこかを減らす（総枠は変わらない）ということでしょうか。
事務局	800 という数字が基本にはなります。

委員	部会同士で行うのは非常に難しいのではないかと思います。
事務局	事務局が間に入って、ある程度の数字をお示した上でご協力いただくという形になるかと思います。
議長	事務局がよく話を聞いた上で着地点を探りつつ、協議するというのでしょうか。
委員	320 ページで収めるということであれば、現行の町史の記述部分を圧縮して新原稿を書くようにします。新町史の冒頭に、「現行町史の重複部分については簡略化し、その後の新しい発掘調査や研究の成果を踏まえて、最新の情報をベースに執筆しました。」と書いていただければ、ほかのページまで使って書くようにはしません。
委員	中世は文献と考古が入っているので、そこは認識してもらいたいです。
事務局	事務局の方で対応します。
委員	民俗はだいぶページが増えているように見えていますが、実は前回の町史が非常に偏っており、特定の項目しか挙げていません。人生儀礼と年中行事なのですが、一般的な自治体史の民俗編において、それしか書かないのは特異です。そうすると地域の民俗のあり方がなかなか見えにくいところがあり、社会や祭りなども含めて記述していく目次構成を立てています。そのあたりを配慮していただいて 80 ページになっているのだと思うのですが、実際にやってみないとわからないところがあり、皆さんにご迷惑をおかけするかもしれません。その上で、ほかの自治体史の民俗編はだいたい通史編とは別に独立しており、ある程度自由度が高いものになっていることが多いです。1 冊の中に民俗編まで含めてまとめていくとなると、それまでの通史全体とは見た目的にも変わる部分があるのではないかと思います。写真や図を多用する可能性があるので、1 冊の本の中でのほかの部会との見た目や印象が異なるといった懸念があるのかなと思います。そういったときに、参考になるようなほかの自治体史があれば、ご提示いただけるとイメージが付きやすいです。
事務局	1 冊にまとまっているものなどをベースにして、表記の仕方などは提案できるようにしたいと思います。

議長	ほかの自治体の歴史の本なども可能な限り調べ、ご提示できればよいのではないかと思います。
委員	近現代の戦後史や最近の生活史は、民俗と記述が重なるところがあります。民俗は資料編集として本編とは別に各地区のものが4冊作られるので、資料編に写真などを多用していけば、通史に一見写真が少なくてもよいのではないのでしょうか。考古編もそうだと思います。通史の中に全部は書けませんので、資料編と補完しながら、本編と資料編との全体で考える必要があるのではないかと思います。
委員	考古の方も写真や図版はやはり必要なのですが、資料集の方で補完するしかないと考えています。
委員	字数的には1ページの字数は増えるということですが、今の阿見町史の1ページの字数はどのくらいでしょうか。
事務局	1ページ1,000字程度かと思います。字数でみれば1.5倍程度に増えると思います。
議長	ありがとうございました。本日の議題は終わりました。 事務局から何かありますか。
事務局	本日、この場でご意見等をいただきました。9月以降に各専門部会が開催されるかと思うので、その場で事務局の方から専門員の皆様にもご報告させていただければと思います。
委員	準備会、編さん委員会について、早めに日程調整をお願いします。
議長	なるべく前倒しでスケジュールは決めてください。 ありがとうございました。それでは、以上で審議を終了いたします。
事務局	〈閉会〉